

理工学研究科ディプロマ・ポリシーに基づき、「特別研究」科目を配置する。

数理科学専攻

- ・ 自然科学はもとより社会科学への応用可能な数学の高等理論を修得させるとともに、高度な研究能力と幅広い知識、国際的な情報発信能力を修得させるため、指導教員が在学期間中継続して研究指導を行う。

物理学専攻

- ・ 物理学に関する広範な見識、課題を発見・解決する高度な研究能力、国際的な情報発信能力の全てを修得させるため、「特別研究」において指導教員が、在学期間中継続して個別の研究指導を行う。

化学専攻

- ・ 各自の研究発想及び展開に基づく創造性、独自性の高い化学研究の遂行と、口頭発表、論文等による成果報告を軸として、指導教員が在学期間中継続して研究指導を行う。高度な化学知識と最新の研究手法を更に修得させつつ、研究推進能力、学術論文の読解能力、専門情報の収集能力、論文作成能力、国際的な情報発信能力等の自立した研究者に必要な能力を身につけさせる。

生命科学専攻

- ・ 生命科学に関わる広い見識を身につけ、研究活動を通じて、自律的に課題を発見し解決する高度な能力を涵養する。英語論文の読解・作成、国内外での学術発表、および活発な議論を励行し、国際的な情報発信能力の修得を目的として、指導教員が在学期間中継続して、この指導を行う。

情報科学専攻

- ・ 健全な情報化社会の構築を技術面と倫理面からリードするための高度な研究遂行能力の養成と、幅広い情報科学分野の知識や国際的な情報発信能力の修得を目的として、研究課題の設定、独自性の高い研究の推進、成果の発表等に関して、指導教員が在学期間中継続した研究指導を行う。

人間システム工学専攻

- ・ 人を中心とした新しいシステムを創出し、新たな価値や産業を確立するための高度で柔軟な研究遂行能力の養成と、幅広い人間システム工学分野の知識や国際的な情報発信能力の修得を目的として、研究課題の設定、独自性の高い研究の推進、成果の発表等に関して、指導教員が在学期間中継続した研究指導を行う。